

所管事項調査

< 目 次 >

1 第3期長崎市教育大綱の策定について P2

【別冊】第3期長崎市教育大綱（案）

企画政策部

教育委員会

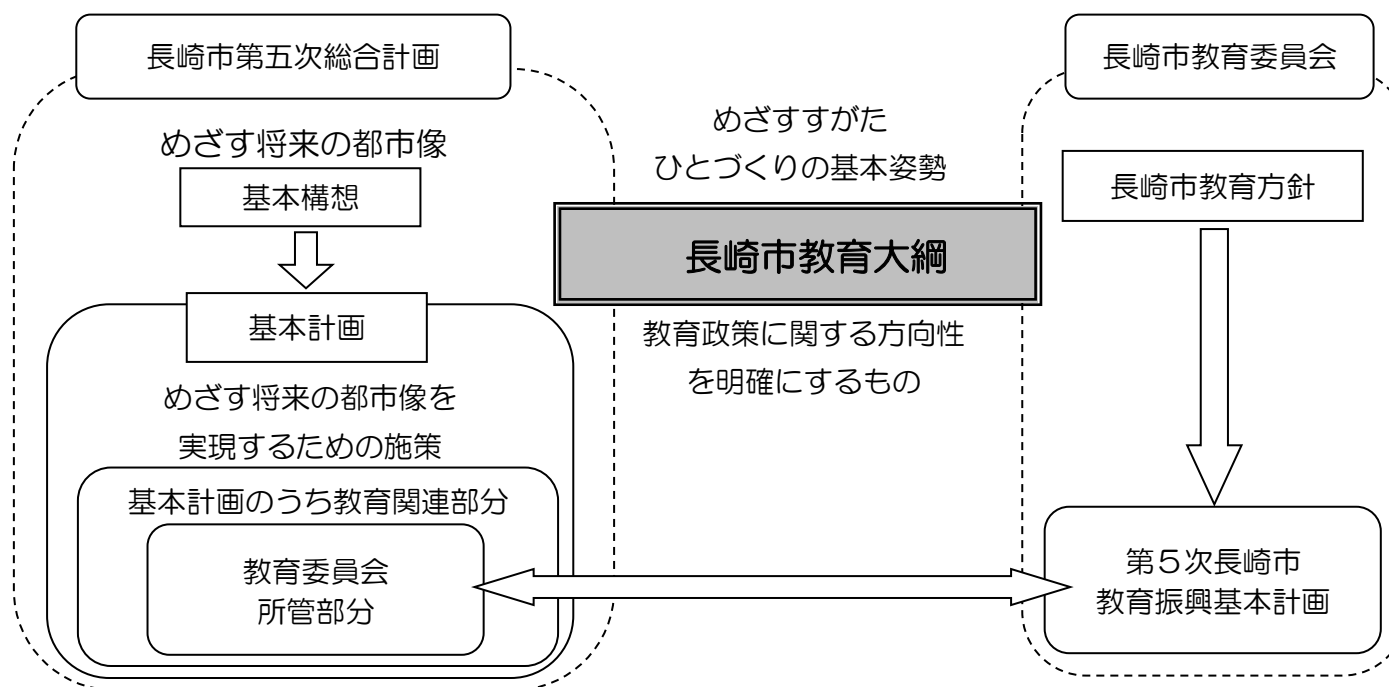
令和7年 11 月

○長崎市教育大綱の位置付け

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正（平成27年4月1日施行）により、地方公共団体の長は、地方公共団体の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱（以下「教育大綱」という。）を定めることとされている。

長崎市教育大綱は、まちづくりの指針である「長崎市総合計画」に基づき、「個性輝く世界都市」、「希望あふれる人間都市」という将来の都市像の実現をめざし、未来の長崎を担う人材育成を進めるにあたり、教育に関する方向性を明確にすることを目的として策定している。

なお、「教育大綱」を定め、又は変更する場合は、地方公共団体の長及び教育委員会により構成される「総合教育会議」において協議することとされている。



○計画期間（総合計画との整合を図る）

第1期：平成28年度～令和3年度（6年）【第四次総合計画後期基本計画期間】

第2期：令和4年度～令和7年度（4年）【第五次総合計画前期基本計画期間】

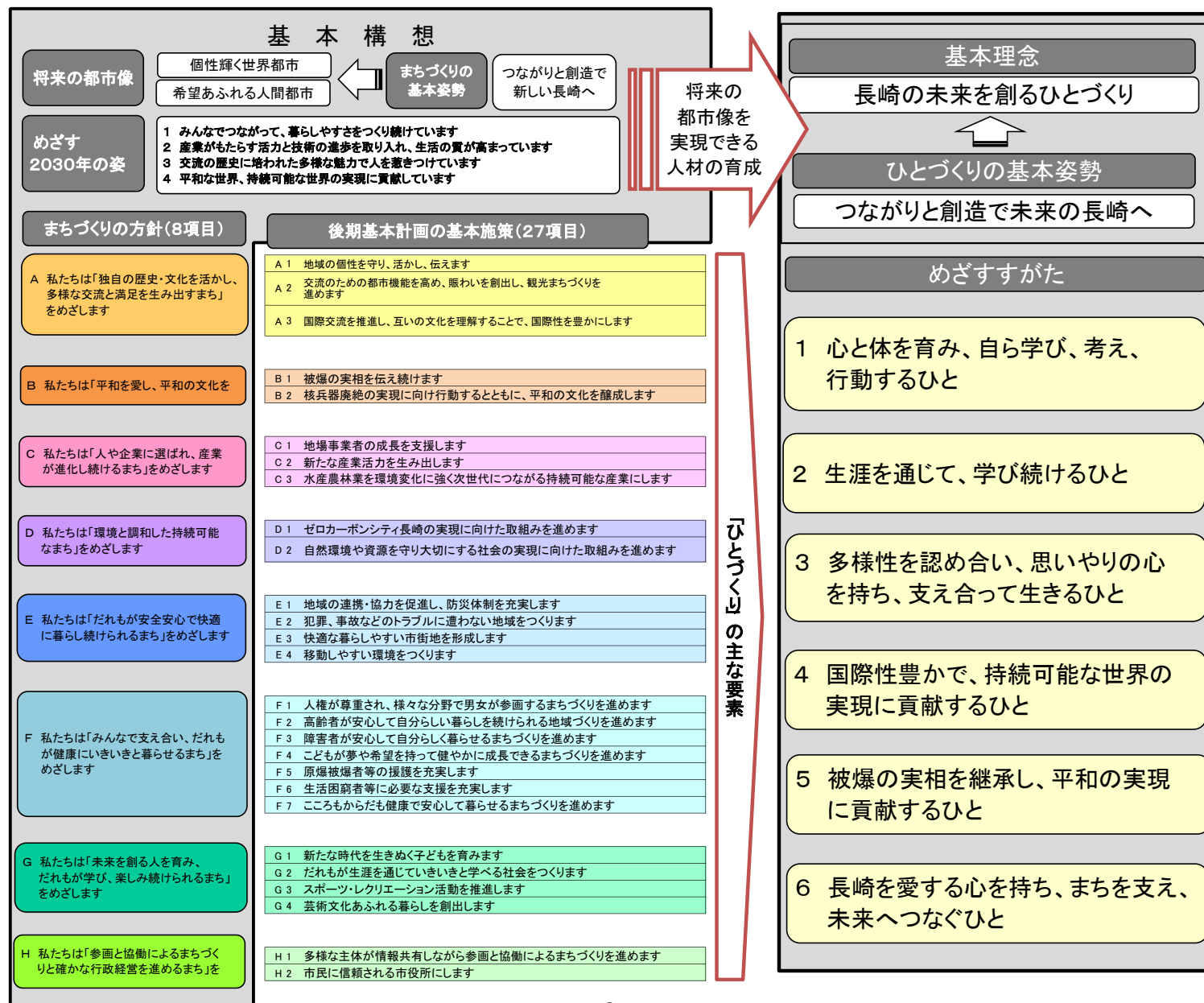
第3期：令和8年度～令和12年度（5年）【第五次総合計画後期基本計画期間】

「長崎市第五次総合計画 後期基本計画」と「第3次長崎市教育大綱」について

後期基本計画において基本構想は変わらず、大きな方向性の変更はないことから、第3期教育大綱についても基本的には第2期教育大綱における「めざすがた」を継承する。

長崎市第五次総合計画 後期基本計画(令和8年度～12年度)

第3期長崎市教育大綱(令和8年度～12年度)



令和 7 年度 教育大綱の策定に係るスケジュール（案）

年・月		令和6年度	令和 7 年度											
		3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
教育大綱作成 進行状況		素案作成					修正・調整				最終案			策定・公表
1	総合教育会議													
		骨子について					素案について			修正案の共有				完成版共有
2	都市経営室		素案作成				素案修正							
3	議会													
										11月議会 （案）			2月議会 （報告）	
4	市民参加										パブリックコメント			
5	（関連計画） 総合計画 後期基本計画	素案作成				修正・調整				最終案				策定

第3期教育大綱策定に伴う変更（新旧対照表）

第2期教育大綱	変更・追加すべきポイント（意見元）	第3期教育大綱
はじめに		はじめに
平成27年4月1日に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」が施行され、地方公共団体の長は、地方公共団体の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱（以下「教育大綱」という。）を定めることとされました。 長崎市は、まちづくりの指針である「長崎市総合計画」に基づき、「個性輝く世界都市」、「希望あふれる人間都市」という将来の都市像の実現をめざしており、未来の長崎を担う人材育成を積極的に進めるにあたり、長崎市における教育に関する方向性を明確にすることを目的として、平成29年1月に「長崎市教育大綱」を策定しています。 「長崎市教育大綱」では、長崎市における生涯学習を含めたあらゆる世代に向けた教育政策の考え方を、「めざすすがた」により表現し、共有・連携を図ることで、長崎市における教育、学術及び文化の振興を推進していくこととしています。 平成29年1月の教育大綱の策定以降、少子・高齢化の進展、Society5.0の実現に向けたAI（人工知能）やIoT（Internet of Things）などの先端技術の急速な進展、多様な人材を活かすための働き方や雇用制度の見直し、コロナ禍による生活行動、価値観の変容など、社会・環境が大きく変化し、将来		平成27年4月1日に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」が施行され、地方公共団体の長は、地方公共団体の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱（以下「教育大綱」という。）を定めることとされました。 長崎市は、まちづくりの指針である「長崎市総合計画」に基づき、「個性輝く世界都市」、「希望あふれる人間都市」という将来の都市像の実現をめざしており、未来の長崎を担う人材育成を積極的に進めるにあたり、長崎市における教育に関する方向性を明確にすることを目的として、平成29年1月に「長崎市教育大綱」を策定しています。 「長崎市教育大綱」では、長崎市における生涯学習を含めたあらゆる世代に向けた教育政策の考え方を、「めざすすがた」により表現し、共有・連携を図ることで、長崎市における教育、学術及び文化の振興を推進していくこととしています。 平成29年の長崎市教育大綱の策定以降、少子・高齢化の進展、Society5.0の実現に向けたAI（人工知能）やIoT（Internet of Things）などの先端技術の急速な進展、多様な人材を活かすための働き方や雇用制度の見直し、コロナ禍による生活行動、価値観の変容など、社会・環境が大きく変化し、将来予測が困難な時代を

はじめに		はじめに
予測が困難な時代を迎えています。 子どもたちを取り巻く環境を見ると、子どもの貧困の問題や、様々な体験の場の減少、地域の人間関係の希薄化など様々な変化が生じています。 さらには、人生100年時代の到来が予測されており、長い人生を生きるためには、生涯を通して知識と時代の変化に応じたスキルを身に付けることが必要になってきています。 このように変化しつづける日本や世界の状況に柔軟に対応し、次の時代を担う人材の育成に向け、教育の重要性がより高まっています。 そのなかで、第1期における取組みの検証を行うとともに、まちづくりの方針である「長崎市総合計画」、国が示す「第3期教育振興基本計画」や、「学習指導要領」の内容等を踏まえ、必要な見直しを行い教育大綱の改定を行いました。 本大綱に掲げる教育政策の考え方を市民の皆様に周知したうえで、学校、家庭、地域等の様々な主体と連携して人材育成に取り組み、未来を創る子どもたちが、健やかな心と体、確かな学力、長崎を愛する心を身につけ、だれもが生涯を通じて学び続けられる社会の構築を進めていきます。	●市全体として官民連携というのは力を入れて進めているため明記する ●人材育成⇒「ひとを育てる」ためのひとづくり・環境づくりの視点を追加	迎えています。 子どもたちを取り巻く環境を見ると、子どもの貧困の問題や、様々な体験の場の減少、地域の人間関係の希薄化など様々な変化が生じています。 さらには、人生100年時代の到来が予測されており、長い人生を生きるためには、生涯を通して知識と時代の変化に応じたスキルを身に付けることが必要になってきています。 このように変化しつづける日本や世界の状況に柔軟に対応し、次の時代を担う人材の育成に向け、教育の重要性がより高まっています。 そのなかで、第2期における取組みの検証を行うとともに、まちづくりの方針である「長崎市総合計画」、国が示す「第4期教育振興基本計画」や、「学習指導要領」の内容等を踏まえ、必要な見直しを行い教育大綱の改定を行いました。 本大綱に掲げる教育政策の考え方を市民の皆様に周知したうえで、学校、家庭、地域及び企業等の様々な主体と連携して「ひとを育てる」ためのひとづくり・環境づくりに取り組み、未来を創る子どもたちが、健やかな心と体、確かな学力、長崎を愛する心を身につけ、だれもが生涯を通じて学び続けられる社会の構築を進めていきます。

基本理念 「長崎の未来を創るひとづくり」		基本理念 「長崎の未来を創るひとづくり」
異国情緒漂う独特の文化を持ち、長い歴史の中で様々な経験をしてきた長崎のまちは、それぞれの時代において、まちに関わる多くの「ひと」が創り、受け継いできたまちです。 これからも、長崎が希望に満ちた魅力あるまち、また、日本や世界に貢献するまちであり続けるためには、これからのまちを創り、次の世代にしっかりと引き継ぐことができる「ひと」を育むことが最も重要です。 そこで、長崎市の教育に関する方向性を示す教育大綱の基本理念を「長崎の未来を創るひとづくり」としました。		異国情緒漂う独特の文化を持ち、長い歴史の中で様々な経験をしてきた長崎のまちは、それぞれの時代において、まちに関わる多くの「ひと」が創り、受け継いできたまちです。 これからも、長崎が希望に満ちた魅力あるまち、また、日本や世界に貢献するまちであり続けるためには、これからのまちを創り、次の世代にしっかりと引き継ぐことができる「ひと」を育むことが最も重要です。 そこで、長崎市の教育に関する方向性を示す教育大綱の基本理念を「長崎の未来を創るひとづくり」としました。

ひとづくりの基本姿勢 「つながりと創造で未来の長崎へ」		ひとづくりの基本姿勢 「つながりと創造で未来の長崎へ」
ひとづくりは、学校や行政だけでできるものではありません。多くの主体同士がつながり合い、個々では生み出せない大きな力や新たな発想を活かして取組みを進めることで、より大きな成果につなげることが期待できます。 長崎のまちが一体となって、一人ひとりに向き合い、個性や課題に応じたひとづくりに取り組みながら、長崎のまちを未来へと引き継いでいきます。 (1) 学校・家庭・地域・行政等の様々な主体同士が、教育・福祉・子育て・平和等のあらゆる分野においてつながり合い、多くの市民が当事者として関わることで、長崎のまち全体が一体となったひとづくりに努めます。 (2) つながりによって創造される力や発想を活かし、健やかな育ちを支え、学びを深めるための新たな仕組みの構築や長崎らしい多様な体験活動の充実を図ることで、時代の変化に対応しながら、自ら学び、考え、行動し、未来を切り拓くことができるひとづくりに努めます。 (3) 育まれた人材が長崎のまちを支え、さらに次の時代を支える人材を育むことで、長崎のまちが未来へつながるひとづくりに努めます。 (4) 持続可能で、誰一人取り残さない社会の実現にあたり、その達成に向けたひとづくりに努めます。	●市全体として官民連携というのは力を入れて進めているため明記する ●「多くの市民」→「一人ひとりの市民」とすることで自分事ととらえやすい表現に変更	ひとづくりは、学校や行政だけでできるものではありません。多くの主体同士がつながり合い、個々では生み出せない大きな力や新たな発想を活かして取組みを進めることで、より大きな成果につなげることが期待できます。 長崎のまちが一体となって、一人ひとりに向き合い、個性や課題に応じたひとづくりに取り組みながら、長崎のまちを未来へと引き継いでいきます。 (1) 学校・家庭・地域・企業・行政等の様々な主体同士が、教育・福祉・子育て・平和等のあらゆる分野において連携し合い、一人ひとりの市民が当事者として関わることで、長崎のまち全体が一体となったひとづくりに努めます。 (2) つながりによって創造される力や発想を活かし、健やかな育ちを支え、学びを深めるための新たな仕組みの構築や長崎らしい多様な体験活動の充実を図ることで、時代の変化に対応しながら、自ら学び、考え、行動し、未来を切り拓くことができるひとづくりに努めます。 (3) 育まれた人材が長崎のまちを支え、さらに次の時代を支える人材を育むことで、長崎のまちが未来へつながるひとづくりに努めます。 (4) 持続可能で、誰一人取り残さない社会の実現にあたり、その達成に向けたひとづくりに努めます。

1 心身ともに充実し、自ら学び、考え、行動するひと	●「心身ともに充実し、」は障害の有無や暮らす環境など多様な状況に配慮した表現に変更	1 心と体を育み 、自ら学び、考え、行動するひと
社会環境が大きく変化する中であっても変わらない価値として、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の3つをバランスよく身に付け、社会的に自立する必要があります。 また、幼児期からの教育を通じて、広い視野と、自分の考えをしっかりと持ち、自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、責任を持って行動することで、自分で解決する力を育む必要があります。 (1) 習得した基礎的な知識・技能を活用して、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力などの能力及び、主体的に学習に取り組む態度を身に付けたひとを育てます。 (2) 規則正しい生活習慣、食習慣や体力向上につながる運動習慣などを身に付け、心身ともに健やかなひとを育てます。 (3) 自分の考えや問題意識を持つことで、自ら課題を見つけ、課題に対する最善の解決策を導き出し、責任を持って行動するひとを育てます。	●「幼児期からの教育を通じて」に保育所・幼稚園・こども園等が入るような「学校」の部分をもう少し幅広の表現に変更。 ●学校と様々な施設との連携の視点を追加 ●「育てます」が指導的、義務的に感じる人もいるのでは。⇒「育みます」に変更⇒【全めざすがた 共通】 ●情報が増えている社会の中で、「認知バイアスや確証バイアス」に左右されず適切な選択をしていくという表現を明記	社会環境が大きく変化する中であっても変わらない価値である、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の3つをバランスよく身に付け、社会的に自立する必要があります。 また、幼児期からの教育を通じて、広い視野と自分の考えをしっかりと持ち、主体的に判断し、責任を持って行動することで、力を育む必要があります。 あわせて、就学前施設（保育所、認定こども園、幼稚園など）・学校と地域、様々な施設（図書館・公民館・科学館など）、企業などが連携することで、子どもが自ら学ぼうとする意欲を持つことができるような環境を整える必要があります。 (1) 基礎的な知識・技能、それらを活用して、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力などの能力ならびに主体的に学習に取り組む態度を身に付けたひとを育みます。 (2) 規則正しい生活習慣、食習慣や体力向上につながる運動習慣などを身に付け、心身ともに健やかなひとを育みます。 (3) 自分の考えや問題意識を持ち、自ら課題を見つけて、多様な情報の中から課題に対する最善の解決策を導き出し、責任を持って行動するひとを育みます。

1 心身ともに充実し、自ら学び、考え、行動するひと		1 心と体を育み、自ら学び、考え、行動するひと
(4) Society5.0※を見据え、ICT※を基盤とした先端技術を効果的に活用し、主体的・創造的に変化の激しい時代を生きぬく資質・能力を持つひとを育てます。 (5) 家庭の社会経済的な背景や、障害の状況や特性及び心身の発達の段階など、子どもの発達や学習を取り巻く個別の教育的ニーズを把握し、安全・安心に学ぶ環境を整えることで、心身ともに健やかなひとを育てます。	●「安全・安心で学ぶ環境」について、「公平に」という表現を追加 ●不登校対策として、学びの多様化の取り組みに向けた表現を追加	(4) ICT※を基盤とした先端技術を効果的に活用し、主体的・創造的に変化の激しい時代を生きぬく資質・能力を持つひとを育みます。 (5) 家庭の社会経済的な背景や住んでいる地域、障害の状況や特性及び心身の発達の段階など、学習を取り巻く個別の教育的ニーズや子どもの発達状況を把握し、安全・安心で公平に学ぶ環境を整えることで、心身ともに健やかなひとを育みます。 (6) 多様化する学びのあり方を尊重し、あらゆる児童生徒に学びの機会を保障することで社会的に自立したひとを育みます。

2 生涯を通じて、意欲的に学び続けるひと	●「意欲的に学び続ける」では表現が強く「学びたい人」の入口を広く取れる表現に変更。	2 生涯を通じて、 学び 続けるひと
力強く生き抜いていくための能力を身につける必要があります。新たなことを学び続けるとともに、誰もが生涯を通じていきいきと学び続けられるよう、学びの環境を整える必要があります。 (1) 生涯を通じて、学び続ける意欲を持ち、実践していくひとを育てます。 (2) 生涯を通じたスポーツ・レクリエーションや芸術文化に触れる体験などにより、豊かな心と健やかな体をもつひとを育てます。 (3) 刻々と変化する社会に対応し、必要となる新しい知識やスキルを身に付け、新たなことに挑戦するひと、新たな価値を創造するひとを育てます。	●「非認知能力を育む（テストで測ることができない能力）」視点をふまえ追記 ●学ぶことによる「ウェルビーイング」の視点を追記 ●生涯学習の目的や、中央教育審議会などにおける「学びを地域に還元する考え」や「まちづくりに協力してみようかとか、なにか学んでみようとしたときに活躍の場や学べる場」といった意見を踏まえた表現の変更 ●「大人の情報の学び（情報リテラシー教育）」や「金融教育」の必要性を追記	誰もが生涯を通じていきいきと学び続けることは、より豊かな人生を送るためにとても大切です。 楽しく学びながら自らの学びに主体的に取り組む力やコミュニケーション能力など試験では測ることができない能力を身につけるなど、新たなことを学び続けながらウェルビーイング※を向上させることも、幸福や生きがいにつながります。 また、学んだことを活かして活躍できる場を充実させることで、更に学ぶ意欲が高まるなどの好循環を生み出すことにつながります。 (1) 生涯を通じて、学び続ける意欲を持ち、学びを実践する人を育みます。 (2) 生涯を通じたスポーツ・レクリエーションや芸術文化に触れる体験などにより、豊かな心と健やかな体をもつひとを育みます。 (3) SNS などに関する情報リテラシー※教育や金融教育などを通し、刻々と変化する社会に対応するために必要な新しい知識やスキルを身に付け、新たなことに挑戦するひと、新たな価値を創造するひとを育みます。

3 多様性を認め合い、思いやりの心を持ち、支え合って生きるひと		3 多様性を認め合い、思いやりの心を持ち、支え合って生きるひと
ひとは誰もがかけがえのない存在であり、また、社会で生活していく上では、様々な個性、生き方、考え方をを持った人と関わる機会が数多くあることから、まずは一人ひとりが自分のよさや可能性を認識するとともに、お互いを認め合うことにより、人と人とが絆で結ばれ、共に支え合って生きていくことが必要となります。 (1) 命の大切さを実感し、自分のことも他人のことも大切にすることを育てます。 (2) 人種、民族、国籍、性別、年齢、障害の有無、思想、性自認や性的指向など自分とは異なる個性や生き方、考え方を認め、尊重できるひとを育てます。 (3) 他人との信頼関係を築くことで、助け合い、支え合い、協働できるひとを育てます。		ひとは誰もがかけがえのない存在であり、また、社会で生活していく上では、様々な個性、生き方、考え方をを持った人と関わる機会が数多くあることから、まずは一人ひとりが自分のよさや可能性を認識するとともに、お互いを認め合うことにより、人と人とが絆で結ばれ、共に支え合って生きていくことが必要となります。 (1) 命の大切さを実感し、自分のことも他人のことも大切にすることを 育みます。 (2) 人種、民族、国籍、性別、年齢、障害の有無、思想、性自認や性的指向など自分とは異なる個性や生き方、考え方を認め、尊重できるひとを 育みます。 (3) 他人との信頼関係を築くことで、助け合い、支え合い、協働できるひとを 育みます。

4 国際性豊かで、持続可能な世界の実現に貢献するひと		4 国際性豊かで、持続可能な世界の実現に貢献するひと
社会経済のグローバル化の進展の中においては、日本だけでなく、他国の歴史や文化についても理解を深め、自ら進んで外国の人と交流できる国際感覚を養い、長崎が持つ世界的な価値を発信するとともに、貧困や飢餓、環境破壊など、世界中が抱える様々な問題の解決に向けたSDGs※（持続可能な開発目標）の達成に向け、自ら当事者として主体的に参加するなど、グローカル※な視点を持つことが必要になります。 (1) 外国の文化や考え方を理解し、外国の人々との交流や共生を通して、社会に貢献するひとを育てます。 (2) 長崎が持つ世界的な価値や魅力を国内外に発信するひとを育てます。 (3) 世界中の人々と連携して持続可能な世界の実現に貢献するひとを育てます。	●「英語力の向上」の必要性を「言語能力」と表現して追記	社会経済のグローバル化の進展の中においては、日本だけでなく、他国の歴史や文化についても理解を深め、自ら進んで外国の人と交流できる言語能力と国際感覚を養い、長崎が持つ世界的な価値を発信するとともに、貧困や飢餓、環境破壊など、世界中が抱える様々な問題の解決に向けたSDGs※（持続可能な開発目標）の達成に向け、自ら当事者として主体的に参加するなど、グローカル※な視点を持つことが必要になります。 (1) 外国の文化や考え方を理解し、外国の人々との交流や共生を通して、国際感覚をもったひとを育みます。 (2) 長崎が持つ世界的な価値や魅力を国内外に発信するひとを育みます。 (3) 世界中の人々と連携して持続可能な世界の実現に貢献するひとを育みます。

5 被爆の実相を継承し、平和の実現に貢献するひと		5 被爆の実相を継承し、平和の実現に貢献するひと
原爆被爆から 75 年が経過し、被爆者のいなくなる時代が現実となりつつある中、被爆体験を被爆者から直接継承することが難しくなっていることから、被爆の実相を正しく理解し、次の世代に確実に継承する必要があります。 また、世界中の人々の、核兵器廃絶や平和に対する考え方は様々であることから、平和の実現に向けては、それぞれの考え方を理解しながら、世界中の人々と対話することや、平和のメッセージを発信していくことが必要となります。 (1) 被爆の実相や体験を学び、次の世代に伝えることができるひとを育てます。 (2) 核兵器廃絶のメッセージを世界に向けて発信することができるひとを育てます。 (3) 世界の現状を知り、平和とは何かを考えることができるひとを育てます。 (4) 平和な世界の実現に向けて国、人種、宗教、文化の違いを認め、相互理解のもとに対話や議論をすることで、身近に信頼を生み出すことができるひとを育てます。 (5) 日常の中に平和の文化を根付かせ、その文化をひろげるひとを育てます。	●迫り来る「被爆者がいなくなる時代」を見据え、次の世代へ継承するための積極的な平和教育を「主体的な平和教育」として追記	原爆被爆から 80 年が経過し、被爆者ががいない時代が刻一刻と近付いており、被爆体験を被爆者から直接継承することが難しくなっていることから、被爆の実相を正しく理解し、次の世代に確実に継承する必要があります。 また、世界中の人々の、核兵器廃絶や平和に対する考え方は様々であることから、平和の実現に向けては、それぞれの考え方を理解しながら、世界中の人々と対話し、継続的に平和の創造に努めることや、平和のメッセージを発信していくことが必要となります。 (1) 被爆の実相や体験を主体的に学び、次の世代に伝えることができるひとを育みます。 (2) 核兵器廃絶のメッセージを世界に向けて発信することができるひとを育みます。 (3) 世界の現状を知り、平和とは何かを考えることができるひとを育みます。 (4) 平和な世界の実現に向けて国、人種、宗教、文化の違いを認め、相互理解のもとに対話や議論をすることで、信頼関係を生み出すことができるひとを育みます。 (5) 日常の中に平和の文化を根付かせ、その文化をひろげるひとを育みます。

6 長崎を愛する心を持ち、まちを支え、未来へつなぐひと		6 長崎を愛する心を持ち、まちを支え、未来へつなぐひと
海や山に囲まれた豊かな自然、出島に代表される海外との交流の歴史、和華蘭文化や世界遺産などへの関心を高め、郷土長崎に誇りを持ち、愛する心を育むとともに、その個性を大切に守り、磨き上げながら、次の世代にしっかりと継承していく必要があります。 また、人口減少、少子化・高齢化の進展やライフスタイルの多様化等の影響により、私たちの暮らしにも大小様々な変化が起きていくことが予想される中、誰もが未来に希望を持ち、暮らし続ける魅力にあふれた長崎のまちであり続けるためには、環境の変化に対応しながら、それぞれの地域や産業を支える人材の育成が不可欠です。 地域で育まれた一人ひとりが、当事者意識を持って、地域で助け合う意識を高めることで、自ら地域を支えるとともに、次の世代を担うひとづくりに努めることにより、世代を超えた地域の活性化につながります。 (1) 長崎の豊かな自然や歴史、文化に愛着を感じ、次の世代に継承するひとを育てます。 (2) 様々な世代とふれあい、地域との関わりを大切にするひとを育てます。	●「地域コミュニティと連携したふるさと教育」の意味を追加 ●「長崎の外から見た視点」の意味を追加	海や山に囲まれた豊かな自然、出島に代表される海外との交流の歴史、和華蘭文化や世界遺産などへの関心を高めるとともに、さまざまな人々との交流を通して、長崎の良さを再発見することで、郷土長崎に誇りを持ち、愛する心を育みます。 そして、その個性を大切に守り、磨き上げながら、次の世代にしっかりと継承していく必要があります。 また、人口減少、少子化・高齢化の進展やライフスタイルの多様化等の影響により、私たちの暮らしにも大小様々な変化が起きていくことが予想される中、誰もが未来に希望を持ち、暮らし続ける魅力にあふれた長崎のまちであり続けるためには、環境の変化に対応しながら、それぞれの地域や産業を支える人材の育成が不可欠です。 地域で育まれた一人ひとりが当事者として、地域で助け合う意識を高めることで、自ら地域を支えるとともに、次の世代を担うひとづくりに努めることにより、世代を超えた地域の活性化につながります。 (1) ふるさとである長崎の豊かな自然や歴史、文化、ひとの温かさを知り、愛着を感じ、次の世代に継承するひとを育みます。 (2) 様々な世代とふれあい、地域との関わりを大切にするひとを育みます。

6 長崎を愛する心を持ち、まちを支え、未来へつなぐひと		6 長崎を愛する心を持ち、まちを支え、未来へつなぐひと
(3) 地域を守り、支える意識を持ち、自ら行動できるひとを育てます。 (4) 社会的・職業的に自立し、主体的に社会と関わり貢献するひとを育てます。 (5) 次の世代を担う人材を育成することができるひとを育てます。	●長崎がくらし続ける魅力に溢れたまちであり続けるため、「長崎のまちの魅力を楽しむ・新たに創るひとづくり」の新規の項目を追加。	(3) 地域を守り・支える一員であるという意識を持ち、自ら行動できるひとを育みます。 (4) 社会的・職業的に自立し、主体的に社会と関わり貢献するひとを育みます。 (5) 次の世代を担う人材を育成することができるひとを育みます。 (6) 長崎の新たな魅力を創っていく人を育みます。